

入 試 年度	2026 年度	入 試時期	Ⅱ期入学試験	実施日	2026 年 2 月 24 日
課程	博士前期課程	研究科	文学研究科	専攻・ コース	英文学専攻
入 試 方式	一般入学試験		試験科目	英文学史	

「解答」または「解答例」及び「出題の意図」

【解答】 or 【解答例（採点時の観点）】

問題 [I] ではイギリス文学に関係する用語 11 項目のうち 5 項目を選び、選択した項目について、作家(思想家、批評家を含む)及び作品(映画を含む)に関わらせて説明することが求められています。項目は英文学史の広い基礎知識を確かめられるように挙げられています。そして、項目の定義だけではなく作家・作品に即した具体的な考察を出来る力を問うています。例えば、項目 11 “Unreliable narrator” を選んで解答する場合、この技法の定義を述べた上で、作品について論じることが求められます。たとえば Kazuo Ishiguro, *The Remains of the Day* を取り上げるならば、主人公の “dignity” という語の作品独特の意味について具体的記述をした上で、Ishiguro 自身がこの技法についてどのような見解を示しているかを述べられると良いでしょう。自分の体験について語るとき、しかも、人生で重要な時を振り返って語るとき、人は誰でも（自分自身に対しても）「信頼できなくなる」と作家は述べているからです。

問題 [II] ではイギリス文学の代表的作家 12 名のうち 5 人を選び、少なくとも 1 作品を挙げて、その作品と社会的背景との関係を論じることが求められています。例えば、4. 作家 E. M. Forster (1879-1970) を選び、*Maurice* を取り上げた場合、この作品がなぜ死後に出版されたのか（作家はなぜ生前に出版しなかったのか）、その経緯を具体的に説明できると良いでしょう。当時の社会が同性愛をどう受け止めていたのか、どのような法律が存在していたのかを示し、それにもかかわらず、作家が同性愛を主題とした理由やその表現の方法について、論じることが可能です。また同作品は映画化もされているので、比較して論じることでもできるでしょう。

問題 [III] ではイギリス文学を研究するにあたり、当然問われるべき問題を議論してもらおう問題です。研究対象の多様性に鑑み、6 問 1 択となっています。実際に作品を挙げながら、それに即して議論を展開する能力を見る問題です。Logic, substantiation, structure などが評価のポイントです。

【出題の意図】

明治大学大学院博士前期課程米文学専修における研究を始めるのに十分なイギリス文学の基礎知識ならびに研究対象を分析・論述する能力を問うています。問題 [I] [II] [III] すべてに共通して、作品を通して具体的に分析・説明・論述することを求めています。ま

た、作家・作品名を原語で記すように指示しているのは、原文に即した考察が研究の土台だからです。米文学史や批評用語の基礎知識は、今後、自らの専門を絞っていくときの足場になるとともに視野を広く持つために必要です。基礎知識の解答には事実に即した正答や誤答があり得ますが、具体的な作品についての論述にはいわゆる正解はありません。しかしながら、個々の考察の説得力には差があり、説得力を増すのは誠実で緻密な作品読解と自らの考察を伝達する言語能力です。このような能力を検証しています。

合否判定の方法及び基準

入学試験は文学研究科のアドミッションポリシーに基づき、これを満たす学生を募集することを目的に実施しています。

合否判定については、本研究科のアドミッションポリシーを満たすことを、総合的な視点により合否を判断しております。